

# 君のための絵

## A PICTURE FOR YOU

ADMISSION  
入場無料  
FREE

2024 1.13 SAT - 2.12 MON/HOLIDAY

12:00 - 18:00

会期中の金土日祝のみオープン  
入場は閉館の30分前まで



《チューリップと組合傘》2011年、380×540 mm

阿部美幸

ゲストキュレーター  
GUEST CURATOR

藪前知子

(東京都現代美術館学芸員)

キュレーションを公平に拡張する VOICE

公立美術館における障害者等による文化芸術活動を促進させるためのコア人材の  
コミュニティ形成を軸とした基礎づくり事業「パイロット事業」  
(文化庁委託事業) 令和5年度障害者等による文化芸術活動推進事業



タイトル不明 2001年、515×728 mm

田湯加那子

HAPS HOUSE

〒601-8004  
京都市南区東九条東山王町1

主催:文化庁、一般社団法人HAPS 制作:一般社団法人HAPS  
協力:社会福祉法人みぬま福祉会 工房集、田湯恵明、田湯ひろみ

HAPS

文化庁

# 君のための絵

## A PICTURE FOR YOU

多くの人にとって、何かを描きたいという気持ちの芽生えは、「好き」という感情と繋がっていたのではないのでしょうか。乗り物や動物、アニメのキャラクターやアイドルたち。描くことは、そうした好きなものの世界と繋がるための大事な方法でした。私たちの多くが知りながら、いつしかどこかに置いてきてしまったこの感覚を、更新し続けてきたアーティストたちがいます。この展覧会で特に焦点を当てるのは、アイドルへの愛着を描いた作品です。阿部美幸は、好きな人との相合傘と、幸せの記号のようなチューリップの図像を、画面を埋め尽くすように、長きにわたり描いてきました。田湯加那子は、ディズニーランドでの楽しい一日を描いた最初の作品をきっかけに、力強い線で対象を捉えた膨大な量の作品を生み出してきました。本展では、彼女が自分の絵を確立していく過程で残した、好きなアイドルたちを描いた作品を展示します。

感覚や感情がメディアを通して交換されるこの時代に、自らの手でそれを表現し直そうとする彼女たちの営みは、私たちに、大きな世界に対する個の力を想像させてくれます。いわゆる「ファン・アート」とも地続きにあるこれらの作品は、「愛」という芸術に馴染み深い主題の現代的な表現でもあります。「推し」へのラブレターでもあり、溢れる自分の想いの受け皿でもあり、さらにはそうした閉じた関係を超越して、見るものに共感を促す彼女たちの作品は、人はなぜ表現するのかという大きな問いに対し、幾つもの答えを教えてください。

藪前知子(東京都現代美術館 学芸員)



《チューリップと相合傘》2010年、380×540 mm

## 阿部美幸

### MIYUKI ABE

1981年生まれ。1999年より社会福祉法人みぬま福祉会「川口太陽の家」に所属。2002年より同法人が運営するアトリエにて絵を描き、併設のギャラリーにて作品を展示するようになる。2011年に展覧会「ガールズミーティング」(マキマサルファインアーツ、浅草橋)の出演作家に選ばれ、以降、作家としての活動を続けている。



タイトルおよび制作年不明、255 x 240 mm

## 田湯加那子

### KANAKO TAYU

1983年生まれ。北海道白老町在住。10歳の時から、学校の友達やテレビで見た歌手などを題材にした人物画を描くようになる。2005年の初個展以降、継続的に作品を発表する。近年参加した主な展覧会は「すごいぞ、これは!」(埼玉県立近代美術館ほか、2015~16年)、「Art Brut et Bande Dessinée」(Collection de l'Art Brut - Lausanne、2022~23年)。

## 開催にあたって

障害者等の関わる文化芸術活動は近年大きく発展してきました。美術館やコンサートホールなどで彼ら・彼女らの作品に接する機会も珍しいものではなくなっています。とはいえ、そこには「棲み分け」があり、障害者らによるアートは良くも悪くも特別なものとされています。肯定的な反面、その背後には差別や排除があるかもしれません。

本企画は現代美術、とりわけキュレーションの諸実践を通して、この状況に積極的に働きかけるものです。障害者らが天才かどうか、その作品が優れているかどうか、という議論を一旦留保し、キュレーション実践の積み重ねによって考えを進めること。そもそも「芸術家」や「作品」という概念、その良し悪しは、安定して存在しているのではなく、キュレーションの積み重ねによって、絶えず「実務的に」変更されてきたものです。本企画では、気鋭の現代美術キュレーターによる展覧会制作を通して、小さな躓きの一つ一つを確認し、着実に「開かれた、公平なアート」へと歩みを進めることを目指します。

一般社団法人HAPS

## 関連トークイベント

自分を作ってきたアイドルや「推し」たちの肖像を「ファン・アート」と「コンテンポラリー・アート」の境界を意識しつつ発表してきた画家の松村早希子と本展キュレーターが、それらといわゆる「アール・ブリュット」という領域との関係や、絵を通じたコミュニケーションなどについて考えます。

出演: 藪前知子、ゲスト: 松村早希子(画家/アイドル愛好家、Instagram @sakiko427)

日時: 2024年1月13日(土) 14:00~15:30

参加: 無料、定員10名程度(要事前申込) ※アーカイブ後日配信予定

詳細は決まり次第HAPSのウェブサイトにてお知らせします。

## Access

### HAPS HOUSE

〒601-8004 京都市南区東九条東山町1

TEL 075-748-8575

JR京都駅八条口より徒歩7分

京都市バス 堀小路高倉・京都市立芸術大学前より徒歩11分

駐車場、駐輪場はありません。来場には公共交通機関をご利用ください。

## お問合せ

一般社団法人HAPS

E-mail [info@haps-kyoto.com](mailto:info@haps-kyoto.com)

WEB <https://haps-kyoto.com/>

X(旧Twitter)、Facebook @hapskyoto

本展  
INSTAGRAM



HAPS  
WEBSITE

